

遼廓亭

遼廓亭は本坊表門の内側にある2つの茶室のうちのひとつであり、もう一つの飛濤亭とともに、重要文化財に指定されている。

遼廓亭も他の場所から仁和寺に移築されたが、他の建物と異なり、京都御所からの移築ではない。江戸時代に京都に暮らした有名な絵師である尾形光琳（1658～1716年）の邸宅にあったものである。個人の邸宅の一部として設計されたものではあるが、茶室としての数多くの要件を満たしている。例えば、戸口は半分の大きさしかなく、かがまないと通ることができない。これにより、社会階層が異なる様々な人々が参加する茶会において、平等で友好的な雰囲気が生み出される。遼廓亭は通常は一般公開されていないが、事前予約により団体での見学が可能であり、外から建築上の特徴を学び、静かで落ち着いた雰囲気の庭園を散策することができる。